

がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン
「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」事業

神戸薬科大学
2019年度
がんプロ活動報告

1 第24回がん哲学学校 メディカル・カフェ

- 日 程** 2019年5月11日(土)
- 場 所** 神戸薬科大学地域連携サテライトセンター
- 講演テーマ** 「25歳でがんになって」
- 講 演 者** 岸田 徹 氏 (NPO法人がんノート代表理事)

内容

第24回がん哲学学校 メディカル・カフェを開催し、34名が参加されました。初めて、AYA世代の方のがん体験を聞く機会となり、高齢者と違った問題（ライフイベント：恋愛、結婚、出産、就職等）を抱えている状況を知りました。本学の学生も10名参加しており、身近な問題として捉えたようでした。

2 神戸薬科大学第13回がんプロ講演会

- 日 程** 2019年7月6日(土)
- 場 所** 神戸薬科大学10号館4階会議室
- 講演テーマ** 「肺がん治療の最前線」
- 講 演 者** 里内 美弥子 氏 (兵庫県立がんセンター副院長)
祝 千佳子 氏 (京都大学医学部附属病院薬剤部主任)

内容

2019年7月6日(土)に神戸薬科大学10号館4階会議室において、「神戸薬科大学第13回がんプロ講演会」を開催し、49名が参加されました。

今回のテーマは「肺がん治療の最前線」で、肺がん治療において先進的な医療に携わっておられる2名の先生方に講演をしていただきました。

最初の講演は、兵庫県立がんセンターの副院長で、ゲノム医療・臨床試験センター長でもある里内美弥子先生に、「こんなに進んだ！非小細胞肺がんの薬物療法」について講演していただきました。内容としては、肺がんの薬物療法が劇的に進歩し変貌していること、非小細胞肺がんでは組織をとって遺伝子変異やPD-L1検査をすることが治療選択で重要であること、遺伝子検査の結果の判明が非常に早くなったこと、遺伝子変異にあわせた分子標的治療薬は効く可能性が高く、劇的な効果を生むことがあること、新しい遺伝子変異が発見されていて、その治療薬も今後出てくることなどをお話ししていただきました。具体的に著効を示した症例をCT画像も交えて13症例も示していただき、非常にわかりやすく興味深い内容でした。

2番目の講演は、京都大学医学部附属病院薬剤部主任で、がん指導薬剤師でもある祝千佳子先生に「肺がん治療における病院薬剤師の関わり」について講演していただきました。内容としては、京大病院の薬剤師外来の活動紹介と、肺がん治療薬の知っておきたいポイントを分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬に分けて講演されました。抗がん薬には副作用として様々な症状があり、それぞれについて丁寧に患者に対して指導していることを話されました。特に爪囲炎の発現率は高く、そのマネージメントに工夫をしていることがわかりました。また、日々進歩している肺がん治療薬の薬剤ごとにガイドライン・作用機序を把握し、抗ガン役を安全・適切に投与できるように留意していること、副作用を早期に発見し、正しく評価して適切に対処・治療すること、免疫チェックポイント阻害薬などでは多職種、多診療科と特に綿密に連携することなどを力説されました。

今回の2名の先生方の講演は、激変している肺がん治療の現在を示していただく内容のものであり、講演後は熱心な質問がありました。また、一般の参加者もあって、関心度の高い講演会になりました。



3 第25回がん哲学学校 メディカル・カフェ

日 程 2019年7月27日(土)

場 所 神戸薬科大学地域連携サテライトセンター

講演テーマ 「がん哲学 ～種を蒔き人を建て上げる～」

講 演 者 樋野 興夫 氏 (一般社団法人がん哲学外来代表)

内容

第25回がん哲学学校 メディカル・カフェを開催し、89名が参加されました。樋野興夫氏の講演を聞ける機会でもあり、遠方より参加して下さった方も多く、講演や質疑応答も盛り上がりました。がん患者さんやご家族にとって貴重な対話の場になっていることを感じました。

4 第26回がん哲学学校 メディカル・カフェ

日 程 2019年9月28日(土)

場 所 神戸薬科大学地域連携サテライトセンター

講演テーマ 「がんになっても笑顔で育つ」

講演者 楠木重範氏 (チャイルド・ケモ・クリニック院長)

内容

第26回がん哲学学校 メディカル・カフェを開催し、34名が参加されました。小児がんは国内では年間2,000人ほど発症していますが、その内容や家族の苦悩についてはまだまだあまり知られていません。今回は、楠木重範先生より小児がんの治療やそれに伴う家族の悩み・成長についてお話いただき、小児がんについて考えるよい機会になりました。

5 がん教育 (1日目)

日 程 2019年10月30日(水)

場 所 神戸大学附属中等教育学校

内容

がん教育(1日目)の授業に122名(中1)の生徒が参加しました。文部科学省の学習指導要領によりますと、来年度(2020年)より、小学校を皮切りにその後中学校、高校と段階的に「がん教育」が実施されることになっています。しかしながら、がんという疾患への対応・治療は専門性が高いため、保健体育の教員が実施するのは重荷であるという声も聞こえてきます。そこで本学教員が、「がんに対する正しい知識」について講義を行い、その後、本学学生も入ってグループディスカッションを行いその内容を発表しました。また将来的には、学校薬剤師による「がん教育」の実施を計画していますが、その準備として、今回神戸市内の学校薬剤師5名の授業参加があり協力的な言葉をいただきました。



6 ちゃやまちキャンサーフォーラム 2019 出展

日程 2019年11月2日(土)

内容

MBS（毎日放送）が「もっと知ってほしいがんのこと」をテーマに、大阪の毎日放送本社で「ちゃやまちキャンサーフォーラム 2019」を開催しました。がんに関する最新セミナーの他、1階の展示ブースでは、患者会やがんに関する啓発活動を行っている団体が、それぞれの活動を展示ブースで紹介しました。本学もアクティラボの学生と一緒に「がん哲学学校 in 神戸」の活動を紹介し、参加者との交流を持つことができました。



7 がん教育（2日目）

日程 2019年11月13日(水)

場所 神戸大学附属中等教育学校

内容

がん教育（2日目）の授業に122名（中1）の生徒が参加しました。NPO法人がんノート代表の岸田徹氏より25歳でがんを発症した体験談を聞かせていただきました。アフラックのがん保険のCMにも出ている方で、知っている生徒も多かったこと、内容も分かりやすく構成されていたため、興味を持って聞いていました。今回、神戸市内の学校薬剤師4名の授業参加がありました。



8 第27回がん哲学学校 メディカル・カフェ

日 程 2019年11月16日(土)

場 所 神戸薬科大学地域連携サテライトセンター

講演テーマ 「パーキンソン病と付き合いながらの
人生で見て来たこと、そしてこれから」

講 演 者 北河 修治 氏 (神戸薬科大学名誉教授)



内容

第27回がん哲学学校 メディカル・カフェを開催し、32名が参加されました。昨年まで本学の学長をされていた北河氏の講演であったため、ご縁のある参加者が多かったようです。がんに関する内容ではありませんでしたが、病気にならない考え方や生活習慣という点では非常に参考になり、がんとの共通点やがんを俯瞰する良い機会になりました。



9 がん教育 (3日目)

日 程 2019年11月20日(水)

場 所 神戸薬科大学11号館4階演習室

内容

がん教育 (3日目) の授業に121名 (中1) の生徒が参加しました。本学学生による「葉っぱのフレディ」の朗読後、「いのちの授業」として死の疑似体験をしていただきました。いのちを見つめるという深い内容であるため、退出する生徒も想定していましたが、全員最後まで参加できました。グループディスカッション後の発表では、「生き方」という哲学的な内容もあったことから、生徒の心に種を蒔く機会になったと感じました。今回、神戸市内の学校薬剤師4名の授業参加がありました。



10 第28回がん哲学学校 メディカル・カフェ

日 程 2020年1月25日(土)

場 所 神戸薬科大学地域連携サテライトセンター

講演テーマ 「いのち輝かすために」

講 演 者 佐橋 啓空 師 (通照院住職)

内容

第28回がん哲学学校 メディカル・カフェを開催し、32名が参加されました。佐橋啓空師より、日々感謝を持って生活することの大切さや一人一人の命を輝かせることについてご講話をいただきました。またシンセサイザーも持参いただき、参加者と“さだまさしの「いのちの理由」”を全員で歌い、非常に心潤う時間となりました。



受賞

第13回日本緩和医療薬学会年会において、横山郁子助手（薬学臨床教育・研究センター）が令和元年度一般社団法人日本緩和医療薬学会優秀論文賞を2019年6月2日付で受賞。
受賞タイトル「中学生に対するがん教育の実施および生徒の意識変化」（日本緩和医療薬学雑誌第11巻3号掲載）

第13回日本緩和医療薬学会年会において、堀部里帆（薬学臨床教育・研究センター5年生）が令和元年度一般社団法人日本緩和医療薬学会優秀演題賞を2019年6月2日付で受賞。
受賞タイトル「がん教育実施による中学1年生の死生観の変化」

